

# シラバス・データベースの構築と運用

米谷 淳（神戸大学大学教育研究センター助教授）

## 1. はじめに

大学教育研究センターは平成6年に大学の教育改革の一環としてボリュームある「授業計画」すなわち「シラバス」をつくることになった。それは、それまでの1科目数行の「授業要綱」を改め、毎回の授業内容や履修上の注意や評価方法までを含め、「テレビガイド」のように学生が履修登録時の科目決定のためだけ見るものでなく、授業の予復習にも利用できるようなスタディガイドとしての機能をもたせようとしたものであった。国内外の先例を参考にしながらフォーマットを決定したが、当初から出来上がりが電話帳のように分厚く重たいものになることが予想された。かくて、平成7年度全学共通授業科目授業計画（以下、7年度版シラバスと略す）は、全ての新生と授業担当教官に配布するため584頁の冊子が4300部以上印刷された。そして、その保管と各学部への配送に教務学生掛が多量のエネルギーを費やした。

全科目のシラバスを全学部の学生に配布しても一人一人が実際に見るのは関係のある数十頁であり、500頁近い本を常時携帯する学生はほとんどいないだろう。また、授業開始が原稿提出から半年近く後になることもあり、実際の授業の進み方は印刷されたものと大きく異なることも少なくない。さらに、ほとんど使用されずにごみとなるのは資源の無駄遣いだし、残部の保管も容易ではない。学生には当該科目のみを参照できるようにしてやればよく、このような冊子は授業担当者や教務委員等が担当科目の授業やカリキュラムを考える際に使われるべきものであり、配布は全学共通授業科目の担当者と関係者だけにすべきでないか、といった議論がなされた。そして、平成8年度版シラバスは490頁の冊子が800部程度印刷され、関係教官だけに配布された。

7年度版シラバス作成の作業が始められる以前に、「シラバスをデータベース化してCD-ROMに記録し、保管・搬送が楽で検索が容易にできるシステムがつくれぬだろうか」という相談を瀧上副センター長（当時）からもちかけられた。その時にはまだ、一般ユーザーがCD-ROMへデータを書き込むことは困難で、インターネットの利用も夢のように思われていた。しかし、紙の無駄とその保管・搬送の手間等を考えれば、データベース化、電子化、コンピュータでの検索システムの構築は大いに意味のあることであり、今後の大学教育システムの改善・進化に寄与すること大と考えられた。かくして、私は全学共通授業科目のシラバス・データベースの構築とその試験的運用に携わることになった。

現在、すでにCD-ROMの試作版が出来上がり、それをハードディスクにインストールした4台のパソコンが学内の3つの図書館に設置され、学生に常時開放されている。また、本年8月からは研究部の共同研究室のサーバーに大学教育研究センターのホームページを開設し、それに試作した8年度版シラバス・ホームページを索引付きでリンクさせ、8年度の教養原論100頁分が曜日や学部別に検索できるようになっている。これまでさまざまな模索と実験を繰り返してきたが、予想外に早くシラバス・データベース計画が進んだのはパソコンの進歩とインターネットの普及と本学のネットワークの発展によるところが大きい。以下に、現在のシラバス・データベースにいたる作業を振り返り、今後の課題を述べる。

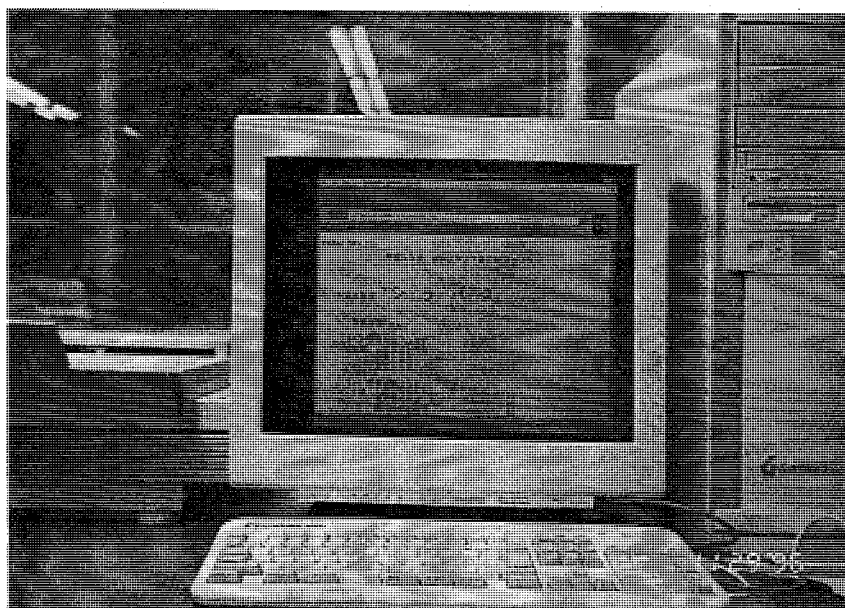
## 2. CD-ROM版シラバス・データベースの構築

汎用性を考え、とりあえず市販のパソコン用データベースソフトを利用してシラバス・データベースをつくっ

てみることにした。アプリケーション・ソフトとしては、使いやすさと普及度の点からLotus Approach Windows 3.1版を採用した。データベースの構造はできるかぎりもとの平成7年度シラバスに準拠させた。ただし、ディスプレイ画面の制約と見やすさを考慮し、スクロールなしに各頁をみることができるようするためにフォーム設計を工夫した。図1に作成したフォームの一例をあげる。大きいテキストはそれぞれの最初の数行だけが見えるようになっており、残りの行はそれぞれの枠の右端にあるスクロールバーをマウスで操作することにより見ることができる。また、それぞれの項目の背景や文字の色、フォント等を変化させて見たい項目がすぐに見つかるようにした。

データ入力については業者に数頁ずつ、指定した形式でシラバスのテキスト・ファイルを作らせ、それを逐次Lotus Approachに読み込ませた。フロッピーディスクに保存できるデータには制約があり、一度にすべてのデータを保存してシステムに読み込ませることができなかつたためである。なお、ハードディスク上に作られたデータベースは平成7年度版の完成時にデータ部分が2.5メガバイト以上になった。これを記録する外部記録用の媒体として、CD-ROMを利用することにした。他に、光磁気ディスク(MO)等があるが、CD-ROMなら多くのパソコンに読み取り装置が内蔵されているので改めて特別な周辺機器を必要としない。また、書き込み禁止であり、使用中に誤って消去したりデータを書き換えてしまう恐れもなく、保管や取扱いが楽である。そこで、YAMAHA製のCD-ROMライターを購入し、ハードディスクに保存したデータベース(データ部分とシステム設定部分)をCD-ROMに書き込むことにした。平成7年7月、CD-ROM版シラバス・データベースの試作第1号が完成した。その後、Macintoshのクラリスワークスで使えるデータベースも試作され、さらに、Windows 3.1からWindows 95への移行に対応したLotus Approach Windows 95版用のシラバス・データベースも作成された。

このようにいくつかのパソコンで使えるようになったが、このデータベース・システムは市販のアプリケーション・ソフトに依存しており、予めそれをパソコンにインストールしている必要がある。そのため一般の学生への配布には適していない。とはいえ、自前でヒューマン・インタフェースの行き届いたデータベース・システムを構築し、データベースにつけて頒布するのは至難であり、いまのところLotus Approachやクラリスワークスなどの優れたアプリケーション・ソフトに依存するのが得策かと思われる。



### 3. シラバス・データベースの運用

平成6年度からシラバス・データベースを学内の図書館においたパソコンで学生に随時検索ができるようにさせる計画が構想されていたが、平成7年度にシラバス・データベースのCD-ROM版を作成したのが7月であり、図書館のパソコンが不足しており、アプリケーション・ソフトもないことにより、平成8年4月からの運用をめざしてパソコンの整備や平成8年度版シラバス・データベースの構築を進めることにした。平成8年度は学生にシラバスを配布しないことにしたので、学生が図書館に置かれたシラバスを閲覧するだけでなく、シラバス・データベースを使用する機会が増えると考えたのである。

シラバス・データベースの試験的運用の準備は総合情報処理センターの石定掛長らの協力を得て進められた。平成8年度は自然科学系図書館分室、人間科学系図書館分室、国際・教養系図書館分室の3か所に計4台のパソコン(NEC PC98 VALUESTAR)を設置し、それぞれにLotus Approachをインストールしていただき、開館時には学生が自由にデータベースを検索できるようになっている(写真)。ソフト自体は実に使いやすくできており、Windowsになれている学生には全く使い方を説明する必要がないものであるが、初心者のために簡単なマニュアルをシートにしたものをパソコンの側に置くことにした。

国際・教養系の分室の2台のシステムについては、導入時に図書スタッフの方に説明をし、トラブル時には私が出向いて解決するように努めた。実際に運用を開始した後、1～2か月はソフトが作動しなくなり、何度か修復する必要があった。トラブルは全て学生がWindowsをいじって、別なソフトを使おうとしたり、自分勝手にコントロールパネルの設定をして、そのまま立ち去ったことによるものであった。修復に時間を要した場合もあったが、インストールし直さなければならないほどの重大なトラブルは生じていない。

### 4. インターネットを利用したシラバス・データベース公開の試み

学生や全学共通授業科目を担当していない教官が平成8年度版シラバスを見るには、各部局の教務学生掛か図書館分室に置かれた冊子を閲覧するか、いくつかの図書館分室に置かれたシラバス・データベースを操作しなければならない。また、学外の研究者などが本学のシラバスを見ることも容易ではない。そこで、インターネットを活用し、いつでもどこでも誰にでもシラバス・データベースにアクセスできるようにすることが構想され、そのための準備作業を進めることにした。

手始めに、大学教育研究センターのホームページを開設するために、WWWサーバーを研究部に設置した。Gateway 2000 (Windows NT) というシステム上にNetscape serverをインストールし、そこにホームページを作成した。さらに、業者に平成8年度シラバスの教養原論100頁分をHTML形式に書き直してもらい、そうしてできた「シラバス・ホームページ」を大学教育研究センターのホームページにリンクさせた。なお、検索を助けるために、もとの頁の順に並べたものの他に、学期曜日別に並べたものと、学部別にならべたものの3つのファイルを作成し、それぞれの目次に各頁をリンクさせた。

これらは平成8年9月から試験的に公開しており、毎日、最低2～3件のアクセスがある。なお、センターのホームページもシラバス・ホームページも現在改訂の作業を進めているところである。

### 5. 今後の課題

早くも平成9年度のシラバス作成の時期になった。平成9年度シラバスの作成とあわせて、平成9年度シラバス・データベースを作成する予定であるが、9年度はWindows 95への移行をし、フォームも改良する予定である。

また、残りの図書館分室にもシステムを設置するとともに、それらのシステムからインターネットにアクセスできるようにしようと考えている。シラバス・ホームページについても、印刷物と違い随時更新可能である特徴を生かし、担当教官が各自の授業情報（教材、課題、学生への連絡等）をシラバス・ホームページの該当頁にリンクして、学生に常に新しい情報を提供しつづけることができるようにしていきたい。なお、これについてはすでに私が実験的に進めているところであるが、平成9年度には何人かの担当教官にモニターとなっていただき、試験的運用を拡大させる予定である。

このような作業を通して、多くの学生に適時、教材を配布したり、課題を与え、受け付けるといった煩雑な作業を自動化、電子化し、担当教官の手間を省き、資源の無駄遣いを防ぐ、多人数を対象とした授業支援システムを構築していきたいと考えている。「シラバス」は米国の大学のように、教師が学生に一方的に手渡す契約書のようなものでなくてもよいのではないか、日本の大学の教育環境にあわせ、また、和を尊び、きめこまやかで温かな師弟間の人間関係を大切にする日本の風土にあわせて、教官と学生とのコミュニケーションをより円滑にするようなものであってもよいのではないか、いや、そうでなければならないのではないかと考えている。

教養原論(人文)

人間形成と文化

工学部

# 心と行動

米谷 淳

本講義では現代人の意識と行動を取り巻く行動科学の中心領域のひとつとしての現代心理学のひとつのあり方を提示する。現代心理学は基礎心理学的側面だけでなく、応用心理学的側面にもウェイトを置いて、学際的・問題解決的にアプローチをとるところに特徴がある。本年度ははじめに心理学を身近な問題に引きつけとらえていくために、「映画で学ぶ人間関係」というテーマで映画作品をとりあげ、そこに描かれている登場人物の心理やストーリーがどのように表現されているかをみる。次に、心理学的説教から行動科学への発展を概観し、主要な心理学研究法を解説する。後半は、基礎心理学的領域と応用心理学的領域からいくつかのトピックスを選び、キーワードを説明したり、極端な数値を示したりして、心と行動がどのような構造と法則性をもっているかを学ばせたい。授業は従来の講義形式にとらわれず、オーディオ・ヴィジュアル教材をふんだんにとり入れたメディアミックス形式として行動科学する方法を体験的に学習させる。この授業が心理学を専攻しない学生に自分の生活や専攻する分野に行動科学

1. オリエンテーション 2. 映画で学ぶ人間関係(1) 行動観察 3. 映画で学ぶ人間関係(2) NWと人間関係の発展 4. 映画で学ぶ人間関係(3) 文化比較 5. 心理学の歴史 6. 心理学研究法(1) 調査 7. 心理学研究法(2) 検査 8. 心理学研究法(3) 事例研究 9. 基礎心理学のトピックス(1) 認知覚 10. 基礎心理学のトピックス(2) 認知 11. 応用心理学のトピックス(1) 反健康行動 12. 基礎心理学のトピックス(1) 交通行動 (授業や機器等の関係で順番・内容は変化する)

講義の前に指示された教科書の該当範囲は必ず読んでおくこと。授業中にキーワードをすべて説明するとは限らないので、平凡社の「心理学事典」や岩波の「心理学小辞典」などでキーワードを調べて、その意味をよく理解しておくこと。また、授業中に小テストやアンケートを履修することがあるので、課題提出用の紙製のレポート用紙、ある

評価は、期末試験、授業中の小テストや課題、授業への積極的な参加態度の3点をもとに、厳正かつ公平に行う。

吉田・蓮花・金川・長古・米谷 「行動科学ハンドブック」 福村出版 蓮花・西川 「現代都市の行動学」 福村出版

受け身で参加するにはきつい授業ですので、楽をしたければとってはいりません。授業ではできるだけ新しく、